

## 9月11日 総務教育常任委員会 会議録

- 日時・場所 令和5年9月11日(月) 午前8時57分～午後0時19分 第1委員会室
- 出席議員 町田貴子、奥田伸行、中山功一、尾嶋準一、油本朋也、斉尾智弘  
長谷川昭二、阪本和俊
- 欠席議員 なし
- 他の出席を求めた議員 議長 津川俊仁
- 執行部職員等 磯江総務課長、中野企画財政課長、藤江町民課長、友定出納室長  
中原教育総務課長、前田生涯学習課長
- 議会事務局 大庭局長、福嶋主幹

〈会議に付した案件及び経過と結果〉

### 1 開会 : (8:57)

- 奥田副委員長  
それでは、総務教育常任委員会を開会いたしたいと思います。  
委員長、挨拶をお願いします。

### 2 委員長あいさつ

- 町田委員長  
皆さん、おはようございます。今日は総務教育の委員会です。決算もありますし、疑問点があれば、たくさん質問をお願いしたいと思います。陳情は1件です。慎重審議、採決、お願いいたします。今日はよろしくをお願いします。

### 3 所管事項について

#### (1) 教育総務課・生涯学習課

- 町田委員長  
それでは、所管事項について、最初に教育総務課、生涯学習課の課長さんにおいていただいておりますので、皆さん、教育総務課、生涯学習課のところで質問をお願いいたします。初めに、決算をお願いします。斉尾委員。
- 斉尾委員  
主要施策の成果の89ページをお願いします。これ、一番上にGIGAスクール構想整備事業ということで、790万5,000円とあります。ここに成果として、利活用を円滑に進めることができたということがありますけども、同僚議員からも質問等あったように思っておりますけれども、これによって、現在、例えば先生がどのぐらいタブレットを利用して授業に使っておられるかっていうことは把握されとるですか。
- 町田委員長  
中原課長。
- 中原教育総務課長  
お答えします。正確に数値的なもので、何時間中何時間を使ったというような把握の仕方はしておりません。私どもが学校の授業を見学する際に見る様子で話をさせていただきますと、単元によっても使いやすい授業と使うべきではないような授業に分けられるかと思っておりますので、これもちょっと要因にはなるかと思っておりますけれども、大体その2割、3割の授業ではタブレットが使われているというような姿を見ております。以上です。

○町田委員長  
齊尾委員。

○齊尾委員  
その2割、3割というのは、先生の2割、3割というふうな捉え方ですか。それとも、全先生が使っておられて、その中でというような。

○町田委員長  
中原課長。

○中原教育総務課長  
今、申しあげましたとおり、見学したときの授業数というところでの話になりますので、私が見学してない授業であれば、使っておられなかった先生でもクラスで使われているかと思しますので、毎回100%タブレットが使われているかっていったら、そうではないというふうに思っています。今、印象で申しあげましたけど、どこかの2割、3割のクラスが使っているというような感じで、あとは、全体的に時間、授業の内容によって使われる使われない日があるのかなというふうに思っております。

○町田委員長  
齊尾委員。

○齊尾委員  
今話を聞いてると、なかなか全体的にどのぐらい使われておられるかっていうのが把握できていないというような気がします。ですので、せっかくこうやって国の事業なりやってもらって、全生徒に配布するという事業でありますので、将来的に、例えば学校格差、また地域格差、全国的に鳥取県が遅れてしまうとか、北栄町が遅れてしまうっていうことがないように、やっぱりしっかりとこのタブレットを使いながら授業を進めるような、また、先生のレベルについても偏りがないように、始まったばかりですから、今はそんなには言えないと思えますけども、ぜひこの辺の習得率っていう言い方が正しいのかどうか分かりませんが、先生がどのぐらい使っておられるのかっていうところも将来的には見ていく必要があるんじゃないかなと思っておりますが、どうでしょうか。

○町田委員長  
中原課長。

○中原教育総務課長  
今、答弁させてもらいながら、少し思い出したことがあります。県のほうが、どこかのタイミングでタブレットの使用状況というのをアンケートを取りました。一週間のうちどれぐらい使っているのかというような内容だったかと思えます。その時点で北栄町、誰か特定の教員が使っていないというような状況は見えておりませんでした。県のほうも、北栄町に限らず、使っていない、使うのが苦手な教員がいる場合については、研修だとか指導に入ったりというようなフォロー体制も持っておりますので、今、齊尾委員さんがおっしゃったようなところは気をつけながら、県の使えるところは使わせていただきながら、全体的な底上げはしていきたいと思っております。以上です。

○町田委員長  
齊尾委員。

○齊尾委員  
今、課長が言われたように、北栄町独自のそういう先生に対するアンケートっていうか、そういうことに対する考え方っていうのは将来的にはどうですか。

○町田委員長  
中原課長。

○中原教育総務課長

アンケートがよいのか、学校、4校だけですので、4校、例えば校長、教頭とか、ICTの教育活動支援員などがいますので、そこを通じるのがいいかは選べるかと思いますので、状況だけはきちんと把握はしていきたいと思います。アンケートをするかどうかというのはちょっと考えさせていただければと思います。

○町田委員長

齊尾委員。

○齊尾委員

最後にしますけども、大事な取組ですので、全ての先生が取り組んでいただけるように、やっぱり得手不得手があると思うんです、年代により。そういうところもちょっと偏りがないように、子どもたちにちゃんと情報教育ができるようお願いしたいなと思っております。以上です。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

おっしゃるとおりだと思います。何十年か前は、パソコンが入ったときも多分同じようなことの心配があったかと思いますが、今タブレットでそういうことも心配材料ではありますので、きちんとその辺はフォローなり、手当てをしていきたいと思います。

○町田委員長

齊尾委員。

○齊尾委員

次に、83ページをお願いいたします。一番上に、栄保育所の園児数ということで載っております。ゼロ歳から2歳児までということで、3歳から5歳児までは最近いないということなんですけど、私は以前、5歳児まで預かってるんだらうなと思っておりました。いつから変わったのかなってということも含めて、これ、どういう状況か。今、全然受け付けない状況ですか。例えば、3歳から5歳児は受け付けないと、そういう状況になったんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

ちょっと今、いつからというお話がありましたけど、ごめんなさい、ちょっとそこ、いつからというのはお答えできないんですけども、現在は2歳児まで、未満児までの受入れに限定をされておられます。

○町田委員長

齊尾委員。

○齊尾委員

そこに預けたいという保護者の要望があった場合は断るということですね、そうすると。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

そうですね。受入れ募集を行っていないので、そもそもお申込みは受けられないという形になります。

○町田委員長

よろしいですか。ほかにございませんか。油本委員。

○油本委員

失礼します。中原課長、90ページ。まず、ここからお尋ねします。表が3つあります

よね。一番上の表と一番下の表で、例えば一番上の表だったら、1年生が2組で60人、5年生が3クラスで61人、まあ分かります。一番下の表が、3年生、3クラスで61、4年生が2クラスで60というふうにありますけども、いわゆるこれ1クラスが30名マックス、上限であるということですから、こうされてるということではないですね、確認です。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

おっしゃるとおりです。現在、北栄町は、小学校につきましては、1年生から6年生まで30人学級ということで行っておりますので、31人だったり、61人を超える場合は、2クラスだったり3クラスに増えるという形になります。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

例えば、年度途中で転校とかがあって生徒が増えた場合、これクラス増えるんですか。それとも、転校とかで生徒が減った場合、クラスは減らされる、そういうことはあるんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

私もちょっと経験がないので、断定的なところはちょっと申し上げにくいんですけども、基本的な考え方としては、やっぱり人数超えれば3クラスにしたり、減ったときにちょっとどうかというのは分かりかねます。教員につきましては、基本的にはクラス数に応じて県のほうが配置してくれる形になっております。児童生徒の数っていうのは5月1日時点の人数で配置、確定されますので、その5月1日以降に人数が減ったときにどうなるかっていうのは、申し訳ないです、ちょっとまた後ほど回答させていただければと思います。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

減ることを前提として申し上げてるんじゃないかって、私は、例えば上の表の1年生が2組、ちょうどマックス60ぎりぎりですよ。人口増えた場合、それをちょっと考えたわけで、クラスが増えるということは、書いてありますよね、成果、この事業費自体も若干の増額して、ひょっとしてあるのかなと思ったりしたものですから、ちょっと伺ったままで。増えることは決して悪いことじゃないんで、それも前向きにといいますか、クラス増える方向で生徒にストレスがいかないように、同じく先生に負担がいかないように、それは柔軟に対応をお願いしたいと思います。

その件はそれで置いときます、すみません、ちょっと今言われたのに関するんですけども、小学校のクラス定員はそのレベルとおっしゃったんですが、93ページの教育費のこれ、中学校の管理費ございます。ここのところを見ますと、1年生が2クラス、ここで64名となっております。中学校はこれ2クラスで64名、これはこれでいいんですか、伺います。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

中学校は30人学級になっておりません。中学校1年生が35人だったと思います。2年生、3年生はさらに多かったように思います。申し訳ないです、ここも正確なところは後ほ

ど回答させていただきます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

生涯学習課もよろしいですか。

○町田委員長

はい。

○油本委員

まず、成果の98ページを伺います。ちょっと細かい話なんですけど、よろしいですか。成果の98ページ、一番下の表なんです。成人式費のところ、対象者、これが135になってます。北条校区67、大栄校区69なんですけど、これ、足しても136だと思うんですが、これ、1人減ってるのはなぜですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

すみません、ちょっと確認します。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

ちょっと次の話行きますね。でしたら、成果でいうと104ページになるんですよ。人権推進費の話になるんですが、分かりやすいところで、決算書でいうと121ページになるんですよ。このところで、予算現額がこの項目の委託費168万4,000円で、支払い済み、これが85万3,000円になるんですよ。不用額が83万890円上がってるんですよ。これ、半分近くが不用額で上がってるんですが、この説明がなかったと思うんですけど、ちょっと説明お願いします。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

この主なものの委託料が、人権教育啓発推進協議会の委託料になっております。このうち主なものが、大会派遣に係る費用が大きなもので、令和4年度はオンライン大会になったり、あと、東京でありました2022年度部落解放・人権政策確立要求中央集会が不参加であったりとかってということで、旅費の部分が大きく余りまして、精算により返ってきたために、83万円の残が出たことになっております。以上です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

本来は必要だと思って見てただけでも、やむを得ず不用額として計上せざるを得なかったという解釈でよろしいですね。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

そのとおりです。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

続けます、すみません。成果の108ページ、未来ラボの件でお伺いします。こちら、

当初予算が138万5,000円で上がってまして、決算書によりますと、これ66万1,264円と  
なってるんですよ。決算は55ページです。執行率、これ47%なんですよ。これも執行率  
が半分いってないんですが、よろしいでしょうか、この理由を伺います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

すみません、少しお時間ください。確認します。

○油本委員

大丈夫です。続いてしまっていていいですか。

○町田委員長

はい、油本委員。

○油本委員

前田課長、もう1個。108ページのほくらボの同じところなんですけども、コーディネーターですが、ずっと起用されてるわけですよ。例えばスポーツチームにしましても、幾らいい成績を残してても、監督の視点を変えることによって、また新しいチームの活力が生まれてくるもんなんですよね。ですから、何年使ってらっしゃるかはつきり存じ  
ませんけども、ほかの方に替えてはどうかという意見が聞こえてくるわけなんですわ。  
課長、それに関してはどう思われますか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

ほくらボは始まってまだ2年目になっております。1年目、大栄分館の未来構想につい  
て、今年、住民の協働によるインフラの管理のあり方ということで、まだ2年目で、こ  
うしたいああしたいってところがまだ十分にできている状況ではないです。ここま  
で来たらってところが少し見えてから、またそういったところも考えていかないと  
はいけないと思うんですが、まだ道半ばのタイミングでやり方を変えるというところは  
現在のところは考えておりません。以上です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

分かりました。続きまして、これ、同じほくらボなんですけども、参加者、これ16名  
ですよ。参加者16名で、町内在住15名となっております。当初予算額は138万5,000円、  
これ令和5年には147万5,000円に増えてます、実際に。これ、今16名ですが、定員は18  
じゃなかったんでしたっけ、お伺いします。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

最初の定員まで今ちょっと記憶はしておりませんが、当初予定してたより人数が集ま  
らなかったことは事実で、こちらからも声かけ等をして人数を集めたというふうに記憶  
しております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

ちょっと聞きにくいこと聞くんですけども、いわゆるこれ、提案のための集まりです  
よね、町政への。その中に町議が入るのはどうだということを言われたこともあるん  
ですよ。前も何かどっかで話ししたことあるんですけども、今たしか町議が2人入ってお

ります。それに関しては今後どうされるおつもりですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

今年度のほくらボの中には議員さんのほうは入っておられません。

○油本委員

ないですね。

○前田生涯学習課長

はい。令和4年については入っておられましたけども、議員さんとしての立場というよりは住民一人としての形で、お一人だけの意見が反映される形ではありませんし、グループでいろいろ協議して、こういう考えもあるんじゃないか、ああいう考えもあるんじゃないかということで提案してグループとして発表しておられますので、特段とても問題があったというふうに私は認識しておりません。

○油本委員

結構です。

○町田委員長

よろしいですか。ほかにございませんか。中山委員。

○中山委員

主要施策の成果の83ページの中ほどにある在宅育児支援事業についてなんですけれども、延べ159件っていうことで、65家庭というふうに聞いてるんですけれども、これは、家庭で育てることを自らが望んでおられるのか、それとも園に預けたいんだけど入れないので仕方なくそうなっているのか、その辺りはどうでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

自ら選んでおられる方っていうふうに認識しております。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

65家庭って多いのかなと思ってるんですけれども、いや、本当はもっと増えてほしいなって個人的には思うんですね。特に小さいとき、ゼロ歳児、1歳児、2歳児って、やっぱりお母さんと一緒とかお父さんと一緒とかっていう方向に持ってったほうがいいんじゃないかと個人的には思ってるんです。例えば、こういう事業がありますよ、こういう補助がありますよっていうことの周知とかアピールとかっていうのはどういう形で今までされてこられたのかなという。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

周知方法ですけども、町報もたしか年に1回は上げさせていただきますが、まずもって妊娠された方、妊娠届の際には子育て支援ガイドブックというのを一人一人にお配りするようにしております。その中には、各種子育てに関する支援制度というのを盛り込んでいるんですけども、その中にもこの在宅育児の支援の内容は御紹介しているところであります。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

ありがとうございます。次に行きます。88ページですね、一番下にコミュニティ・スクール推進体制構築事業というのがあって、大栄中学校区は5回、北条中学校区では3回というふうに書いてあるんですけども、これ、何で差があるのでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

申し訳ありません。ちょっとその部分については今、理由は分かりません。また調べさせていただければと思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

コミスク、町として進められてるので、同じ頻度で進むべきじゃないかなと思うんですけども、その辺、またよろしくお願いします。

次に、隣のページの8番、先ほど別の委員からもG I G Aスクール構想についてありましたけれども、職員も使ってると思うんですけど、生徒、児童も使ってると思うんですね。その際に学校だけで使ってるのか、持ち帰って使ってるのかっていう、その辺の割合も知りたいところです。せっかくのタブレットなんですけど、学校に置いたままっていうのは非常にもったいないのかなと思うので、その辺、分かる範囲でいいですので、教えていただければと。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

持ち帰りはできるようになっております。ただ、これも御家庭の意向というものも踏まえた上で持ち帰りしていただいておりますが、申し訳ないです、何割ぐらい持って帰っているのかっていうのがちょっと今お答えできません。申し訳ないです。またお返事させていただければと思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

先ほど職員の中での利用率とかっていうのがありましたけれども、持ち帰りに関しても、積極的に持ち帰ることを進めてる先生と、全く持ち帰ることをしない先生とがあるっていうふうに分かっているんですね。その辺、先生の能力の差が出るのかなとは思いますが、町としてはどういう方針を持っておられるのでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

持ち帰りに関して、町のほうで何か一律的なルールを設けてはおりません。G I G Aスクール、持ち帰りに限らずなんですけれども、G I G Aスクールを推進するに当たっては、ここまでしてくださいというよりは、各学校でできることを進めていってくださいというようなことをしておりますので、ちょっとその辺で学校間での進捗が違ってきたところはありますけれども、現状におきましては、各学校でも持ち帰りができるようになってきてはおりますので、それはそれでいい姿かなというふうには捉えているところです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員



ちょっと厳しいこと言いますが、成果のところ、タブレットの利活用を円滑に進めることができたって総括してあるんですけど、課題ってかなりあると思うんですよ。課題については触れてないし、多分いいところを見て円滑に進められてるって言われてるんですけど、円滑に進んでないところもたくさんあるように端から見て思うんですね。実際に小学生の言葉を聞いても、隣のクラスはこうやってるのに自分のクラスやってないんだよっていう声も聞いている。果たしてそれで利活用、円滑に進めることができたと言っているのかどうかというふうに思うんですけど、どうでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

今回、このGIGAスクール構想整備事業の中で予算を使ったものでいいますと、機器の修繕費もなんですけども、各学校にいるICT教育活動支援員だけではなくて、外部の専門の業者の方から1人派遣で、支援専門員という方に来ていただく、専門的な知見を学校のほうに伝えていただくというような立場の委託であったりとか、あと、ネットワーク環境っていうのも当然必要でありますんで、そこが使いにくいということになると、やはり直ちに使えない状況になりますんで、そういう環境整備というのはきちんとできたというふうに思っておりますので、その辺を捉えて円滑にというようなこととさせていただきます。

確かに中山委員さんおっしゃるように、ソフトの部分ではまだまだ課題というものはあるかと思っております。北栄町の現状が今、GIGAスクールの中で100点満点というふうには確かにならないところはありますけれども、ただ、不合格点かといったらそうではないというふうに思っております。どこと比べるか、何と比べるかによるかもしれませんけれども、求められるところについては一定の推進は図れてるかなというふうには思っておりますので、そういう意味では円滑にという言葉を使わせていただいたところでもあります。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

今課長のほうからも言葉ありましたけど、何と比べるかっていうところで、多分、他町とかと比べることにはあまり意味がなくて、町の中でここまでやってほしいというのをやっぱり持って、そこまで到達できたかどうかというところで判断するのがいいんじゃないかなというふうに思うんですけど、それはどうですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

何と比べるか、確かに中山委員さんおっしゃるように、他町と比べてもそれは意味がないことかもしれません。あえて比べるとするならば、学習指導要領で記載される主体的、対話的で深い学びという、これがどこまで実践できたかなというところだと思っておりますので、それは目指していくべきだろうというふうには思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次に行きます。90ページの小学校費、北条小学校管理費の中の成果のところ、北条小学校児童が学校の教育目標に向け充実した学習等の活動が送れるよう、人的配置、教材、施設の整備を行うなど、教育環境の整備向上を行ったと書かれています。全く同じ言葉がその下の大栄小学校のところにあります、学校名が違いますけれども、それから、

中学校のところが93ページ、北条中学校、北条中学校生徒がって頭がなってるだけで、あとは同じ文章。それから、大栄中学校のところも同じなんですね。4校全く同じ言葉が書かれてるんですけども、これはそれぞれ学校ごとに問題点、できたことでできてなかったことそれぞれあると思うんですけど、同じ言葉でくくっちゃって中身が分かんないんですけども、どうなんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

4校同じ表現使わせていただいております。基本的には学校、確かに工事とか学校設備の工事関係の違いはありますけれども、基本的には工事についても適切な教育環境を整えるってことでの目的は同じであります。職員の配置についてもやはり、若干小学校と中学校では職種が違うけれども、同じ目的を持って配置しているという考え方もありますし、スクールバスの関係とかも同じような考え方に基づいてやっておりますので、現状とか学校による若干の違いはありつつも、同じ目的を持って管理事業をさせていただいておりますので、おのずと成果というものも同じになってくるのかなというふうには考えるところです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

多分成果って違ってくると思うんです、学校ごとに。目標は一緒だと思うんですよ。そこに向かっていくんだけど、学校ごとにできたことでできてないこと違ってくるので、成果が一緒ってことはあり得ないというふうに思うんですけども、大きくくくってこの言葉に集約すればそうなのかもしれませんけれども、この言葉に集約してはいけないんじゃないかと思うんですが、どうですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

なかなか成果というものが見えにくいのかなというふうに思います。ちょっと自己満足の部分もあるのかもしれません。目的を持ってこれを私たちはしたんだからということになってしまうかもしれませんけれども、やはりちょっと共通的なその成果としかちょっと書きにくい、出しにくいというところです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

同じところで、人員配置のことなんですけど、よく小学校の職員の募集とかがフェイスブックなりホームページなりに出てますけど、これは十分な配置ができてないというふうには受け止めるんですけど、できてるんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

学校の教員についてはほとんど県の費用によって採用されている職員ですが、今報告させていただいてるのは町で採用している職員です。正直申し上げて、なかなか年度初めにおいても予定していた人員が集まらないというような状況でございます。これは、全国的に学校現場の教員不足というものも関係してるのかなというふうには思っておりますが、年度初めは予定どおり集まらなかったとしても、途中、年度中途であっても募集を行っているのが多分中山委員さんが見られてる姿の部分かなというふうに思ってお

ります。中には、産休だとか代わりで必要な方もありますが、大きな理由としては先ほど申し上げた、なかなか年度初めに集まり切らなくて追加で募集させてもらっているところでありますので、御指摘のとおり、確かに年度初めに十分な体制は取れてないというのが実情であります。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次、91ページです。小学校教育振興費（共通）のところの③児童通学事業ですけれども、北条小学校の遠距離通学となる児童に対して路線バス代を補助したというふうに書かれています、松神、下神。ここはスクールバスは出さないんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

路線バスが活用できる区域ということで、そちらを優先して使っていております。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

スクールバス、あの辺を通っているように思うんですけども、何か一緒に乗せたらいいんじゃないかなと思いますが、そこは何か別の理由があったりするんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

北条小学校につきましては、スクールバス、マイクロバスですけれども、夏は1台、冬は2台で運行しております。バスの乗車定員の関係もありまして、スクールバスを優先して使うというのはなかなか難しい状況もあります。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次、92ページです。言語通級指導教室費、それから発達通級指導教室費、これ前も言って、大体答えは予想できてるんですけど、大栄小学校にあるんですね。北条小学校にはないんですけども、これからはないでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

この通級指導教室、希望は出しております。県が教員を配置しないとなかなかクラス設置ができないもので、北栄町としましては、現在、まなびの教室については、北条、大栄両校にというようなことで要望は出させていただいております。ことばの教室につきましては、各町にあるものでもなくて、大栄小学校に今ありますけれども、他町からも来ていただいております。なかなか他町にはないものを北栄町だけ2校というのは難しいのかなと思っておりますので、ひとまず、まなびの教室については北条にも設置されるよう要望は続けていきたいと思っております。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

北条小学校、大栄小学校の特別支援学級数を見ると、両方7組ということで、同じぐ

らいあるので、やっぱりその辺のフォローも差が出ないように、ぜひ今後も要望し続けてほしいなと思います。

次に、96ページ、給食費の事業ですけれども、県内産を使った給食が、令和2年、3年、4年とずっとパーセンテージが下がっていったんですけれども、ここの辺はどう捉えておられますか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

地産地消率ですけども、ちょっと下がり方は違うんですけども、県平均見ても下がっている状況でありますので、なかなか以前の、令和2年でいうところの98%ですか、そこを維持し続けるのは難しいのかなと思っております。どの食材だったかが確保できないというような状況を聞きましたので、こちらとしては、センターとしてはしたいんですけども、物が集められない、仕入れ業者さんのほうに対応し切れないというようなところだったかと思えます。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

町としての目標値っていうのはどの辺りなんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

目標は県下1位です。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

割合でいくと何%なんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

恐らく令和4年度も三朝町が1位だったかと思えますので、それが95とか、ごめんなさい、ちょっとその数字がはっきり把握しておりませんが、その辺りの数字は目指していきたいと思えます。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次、98ページ、⑧地域副読本作成事業、この決算ではゼロなんですけれども、豊田太蔵さんの生涯を描いた漫画、その後の活用というのは何か新しい展開はなかったんでしょうか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

毎年年度末に、どのように活用されたかということで、活用調査のほうは実施しております。今回は豊田太蔵のこの偉人漫画についても確認しております。大栄小だったか大栄中だったかちょっと記憶が曖昧なんですけども、先生が教材として授業提案をされて、それを活用されたというようなこともありました。またそれを次の学校とかに波及させたいなというところは考えておりますが、まだちょっと実施できておりませんが、

一方で、教科書で手いっぱい、精いっぱいですってというような回答もありましたので、授業に使ってもらえるためには、やっぱりこういうふうに使ったらどうですかという提案ができないとなかなか難しいと思っていますので、その辺については今後も研究していきたいと考えております。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

その辺もしっかり予算つけていただいて、人員派遣するなり、何か教案を作成するなり、ゼロってというのは寂しいかなと思いますので、せっかく作った副読本、地域の人を題材にしてるので、どんどん活用できる方向に持って行ってほしいと思いますが、どうでしょう。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

予算については例年、改訂したりするときには予算を上げているので、この項目は残して、活用とかの状況もお伝えできるかなと思って、この項目はゼロだったんですけど載せました。おっしゃるように、作って終わりではないので、どういった活用ができるのか、予算を伴う必要があるかどうかについては今後考えていかないといけないかなと思いますが、活用の方法についてはこれからも考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

105ページです。隣保館管理運営事業の中の表の中のほくほくパソコンネット講座というのが令和4年度はなかったようなんですけども、これはもうなくなったと見ていいんですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

私が記憶してる中では、この件については特にやめたということも聞いておりませんし、ただ、やってないのは事実なので、今後についてどうするのかっていうのはまだ確認できておりませんので、確認したいと思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

最後ですけども、107ページの人権学習事業、小・中学生を対象に人権学習を開催し、仲間づくりや人権に関する知識や認識を広げたという部分の人権学習会の参加人数なんですけども、令和2年度からどんどん下がってきていて、令和4年度にはもう小・中学生合わせて20名、小・中学生の総人数からするとかなり小さい数なんですけれども、これ少な過ぎるように思いますが、どう捉えておられますか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

令和5年度はさらに少なくなっております、実際のところ。どうやったら参加してもらえるか、参加したいと思わせられないと多分参加人数って増えないと思ってまして、このままの状態がいいと私も思ってなくて、まず、今、人権学習会募集みたいなチラシ

シを出してはいますが、具体的にこんなことしますよっていうのが見えないと参加したいなっていう意欲にはつながらないかなということで、来年度募集時にはもう少し参加したくなるチラシとかも考えていこうかというのは現時点で話はしております。ただ、年度当初からこんなことしたいっていう目標を掲げて、年度の最後のほうの発表のときにはすごく成長を感じられるっていう、ここのすばらしさをどうやって保護者の方とか参加する子どもたちに伝えていくかっていうのは、まだこうしたらいいんじゃないかっていうのの具体は見つかってないんですが、そこを何とか伝えて、参加人数を増やしていきたいなっていうふうには考えております。ただ、人数があまりにも少なくなり過ぎる中で、どこまでこれを存続させていくかっていうことも含めて考えていけない時期に来ているかなというのは思っております。以上です。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

今課長の言葉にもありましたけど、私もこれ見てて、この事業、本当に要るのかなと思いつつ見てたので、その部分ももう考えていただいて、検討していただいてまた回答、どこかの時点で出していただければと思います。以上です。

○町田委員長

ほかにございませんか。長谷川委員。

○長谷川委員

主要施策の成果の95ページ、給食について何点かお聞きしたいんですけども、1つ目は、サプライズ給食についてなんですけども、これは給食センターから作られているのかなというふうに思うんですけども、給食センターの配食範囲は小・中学校と北条こども園ということでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

学校は全てでありますし、北条こども園については4、5歳児の副食費という形になります。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

このサプライズ給食というのは、年2回ということで記載されておりますけれども、このこども園についてはどのようなことになっているのでしょうか。サプライズ給食されているのかいないのか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

すみません、私の認識では、こども園はしてないと思っておりますが、ちょっと確認をさせていただければと思います。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

もし仮にしてあるとして、給食センターが行っておられると思うんで、給食センターから配食されていない他のこども園ですね、北条こども園以外のこども園についてどういうふうにそれをされているのかと。もしやっていないということであれば、やっぱりこども園も小さいときからそういうサプライズ給食で地元の食材になじんでもらうとい

うことから考えれば、当然あってもいいのかなっていうふうに思いますので、その辺をお聞かせいただけたらと思います。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

こども園、サプライズ給食、例えば最近でいいますと、シャインマスカットをパンに挟んでクリームと一緒に食べようというようなことで、子どもたちの手も借りながら給食を楽しめるような形で提供させていただいております。こども園の園児でどこまでできるかという話がありますし、あと、こども園のほうもお楽しみ給食というような形で、サプライズ給食とは言っておりませんが、そういった形で子どもたちに楽しめるような形であったりだとか、あと、季節の食材を提供するというこれはこれまでもやってきてはおりますので、サプライズ給食と一緒にするがいいかというようなところは整理する必要があろうかと思っておりますけども、現在どういう形でしてるか確認はしたいと思っておりますし、もう既に今できてる部分もあるってということだけはお伝えはしておきたいと思っております。以上です。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

もう一つ、給食費の徴収状況の令和2年度から4年度までの分があるんですけども、96ページですね。ここで、令和2年度、5,546万3,000円で、令和3年度が7,206万6,000円っていうことで、非常に伸びているんですけども、ここの要因、それから、令和4年度では逆に半減するようなことになってるんですけど、これはコロナで提供数が減ったのかなというふうな感じがするんですけども、その辺について教えていただきたいと思っております。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

この全体の金額につきましては、コロナが影響しております。コロナの交付金を活用させていただいて、国からの交付金を財源として食材提供をすると。それに伴って、保護者の方からの給食費は集めないということを令和2年度と令和4年度はさせていただきました。令和2年度が3か月、4年度が6か月分させていただいたので、このような数字になってきておりますので、そういったものがない年であれば、令和3年度の金額ぐらいは保護者の方からいただくという状況になっております。以上です。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

令和3年度が通常であるとすれば、この令和2年度は、これは1年間の徴収額ではないということなんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

そのとおりであります。3か月、たしかコロナの交付金を使って減免措置をさせていただきました。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

もう一つは、地産地消率というのが出してあるんですけども、これを見ると、令和2年度70%で、令和3年度が67%、令和4年度が66%と。県内産ということなんですけれども、もっと北栄町って高いのかなと思ってたんですけども、横ばいといえば横ばいなんですけども、微妙に下がっているような状況なんですけれども、これはどうしてなのでしょう。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

今、御紹介いただきました県平均の数字は、北栄町を含めて県下全体の数字であります。北栄町の数字で申しますと、うち県内産というところの数字になりますので、令和4年度は91%、これが北栄町の数字でございます。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

それと、給食業務の委託なんですけれども、令和4年度から5年契約が始まっているというふうになっておりますけれども、これは、95ページ、下段のほうですけれども、最近ニュースを聞いてますと、広島業者だったかと思えますけど、給食食材費が上がって、それを価格に転嫁できずに業務を頓挫させたというようなことがニュースになってましたけども、そういった食材費の高騰という、食材費だけじゃなくって電気代とかそういうものもあると思うんですけども、それは町が見ているのではないかと思いますけれども、委託費の中に入るそういう今の価格高騰で影響を受ける部分ということはないのでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

委託費については、大きくは人件費であります。その他、事務的な経費が若干含まれておりますが、人件費部分が主でありますので、その人件費の上昇というのがどこまでこの金額と今の物価高騰、賃金上昇と合っているかっていうのはなかなか難しいところはありますけれども、ただ、契約するに当たっては、5年間契約するんだよと、5年後を見据えた上で金額なりも出していただいているところでありますし、令和3年度までの金額と令和4年度を比較して金額が増えております。これもやはり人件費の上昇分も含めてこの金額になったというふうに捉えておりますので、ある程度は企業のほうもそこは織り込んでいるというふうには理解しております。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

ただ、5年という期間はかなり長いですよ。最近、政府も含めて最低賃金の引上げというのに少し力を入れてきたということもありますよね。そういうことからいうと、最低賃金を下回ってしまうようなことにこの5年間の間になりはしないかという心配もするんですけども、その辺はいかがですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

企業の中の給料の単価については、こちらがどうこう申し上げる部分ではないんですけども、少なくとも法律で定められる最低賃金を下回るようなことであれば、もちろんそれは事業者側のほうから申出があつての話でありますけども、最低賃金を下回ってで



も今の金額を固持しなければならないというふうには思っておりませんので、そこは相談には乗りたいと思います。

○長谷川委員

分かりました。以上です。

○町田委員長

ほかにございませんか。斉尾委員。

○斉尾委員

86ページ、民生費ということで、②の乳幼児健康支援一時預かり事業っていうことで、成果に病気の子どもを安心して預ける場所を提供することで保護者の就労等のサポートができたというふうに書いてあります。それで、ちょっとふと思うのは、病気になった子を預けるっていうことなんですけども、例えば、登園して急に熱が出た場合の対応ってというのは何かされとるですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

こども園で、朝元気で登園されました。途中、熱が出て体調悪くなられました。一定の体温になりましたら、保護者の方にはお迎えに来ていただくようにしております。

○町田委員長

斉尾委員。

○斉尾委員

そのときに迎えに来てもらうってというのは、例えば、勤めでない方は自由にできると思うんですね、自宅におられる方。ですけど、勤めの方に連絡取って来てくださってというのは、今までもやられとったってということですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

そのとおりです。

○町田委員長

斉尾委員。

○斉尾委員

その辺、保護者の負担ってというのはあるんじゃないですかね。何か考えていかないと、そういう気がしておりますけども。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

熱が出る原因ってというのは何かあるのかと思います。病気だと思います。当然子どもを見守るっていうのも必要ですけども、まず、病院に受診をしていただくっていうことが必要でありますので、そのままこども園で預かるというのがいい方法かどうかというのは分かりません。やはり迎えに来ていただいて、保護者の方がしかるべき対応を取っていただくのが一番かなと思っております。ただ、それが何日も続くということであれば、斉尾委員さんおっしゃるように、やっぱり保護者の負担が大きくなりますので、そのためにこの病児保育とか、病後児保育という制度を設けて、そこの負担が軽減できるようにっていうことでさせていただいてるところです。

○町田委員長

斉尾委員。

○斉尾委員

基本的にはそういう考え方なんだと思います。ただ、病院に連れていくっていうことも、保護者をお願いして連れていくっていうことも当然必要だと思います。ただ、職場を休んで迎えに行くっていうことが負担なので、例えばこども園が病院に連れていくっていうことが適当かどうか分かりませんが、保護者の手を煩わせないような方法もある程度考える必要なのかなっていうことはちょっと思うんですね。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

働かれる保護者の方の負担軽減っていうことでいろんな子育てサービスをさせていただいてありますが、やはりどこまでかは保護者の方にきちんと責任を持ってといいますか、保護者の方に頑張ってもらっていただく必要があるだろうなというふうに思っています。病気の子どもさんを誰が見るかというところについては、私としては、やはり保護者の方にきちんと見ていただきたいというふうに思います。

○町田委員長

すみません。今決算のほうの質疑ですので、あまり決算以外のそういう質疑はちょっとストップさせていただきます。

○斉尾委員

おっしゃりたいことは分かります。

○町田委員長

はい。決算について質疑をお願いいたします。ほかに決算についてございませんか。前田課長。

○前田生涯学習課長

油本委員から御指摘のあった点について確認が取れましたので回答させていただきます。まず、成人式事業の人数の計算誤りの件なんですが、北条地区67人、大栄地区69人とありますが、正確には大栄地区が68人の誤りでしたので、申し訳ございませんでした。135人は誤りではありませんでした。

それから、ほくえい未来ラボの執行残があった件についてなんですけども、遠方からアドバイザーを呼んだりですとか、学生さんにグループワークするときに補助で入っていただいております書記とか、そういった部分について、学生さんをお願いしなくてもグループごとで自主的に活動された。あと、職員手当のほうも残りましたが、そちらもファシリテーターとして各グループに2人の職員を配置しておりましたが、そちらについても、職員が出てグループワークに加わらなくても、発表に向けて準備、それぞれのチームで頑張ってきたというところで大きく執行残になったというところでした。以上です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

すみません、今のほくえい未来ラボの件で、自主的に活動をされたからというのも一因にあったと思います。ということは、自主的に活動された方にも経済的な負担があったんじゃないかなと推測されますが、そういうところの費用弁償といいますか、そういう考え方はどうですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

もう基本的にはほくラボは自分たちで勉強する会っていうところが趣旨ですので、何回集まって、回ごとに幾ら払うというようなやり方は、ラボのメンバーのほうにはお支払

いしておりませんので、確かに負担はあったかもしれませんが、皆さん、そこについて、特に費用負担が欲しかったというようなこともちょっと聞いておりませんし、多分私の印象でしかありませんけども、最終的に発表した達成感っていうか、充実感っていうのはすごく感じられたと思いますので、もし、その辺の面について必要ということがあれば、今後検討していきたいなと考えております。

○町田委員長

よろしいですか。決算についてはもう終わりました、補正、条例について質疑をお願いいたします。油本委員。

○油本委員

ちょっとすみません、私の聞き間違いかどうかなんですけども、まず、一般補正予算書（第5号）でお願いします。これの15ページで、民生費のところ、こちらの17節のところ、備品購入費が33万8,000円、これ、こども園用の業務用椅子の一部というところで、8名分、33万6,000円だと聞いたんですけど、いわゆる8台で33万6,000円ですか。えらい高い椅子じゃないかなと思うんですけど。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

そのとおりでございます。8台分で33万6,000円です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

頭割りされたら当然幾らか分かると思いますが、4万4,000円以上、どんな椅子なんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

どんな椅子っていわれたらあれですけども、役場の職員が使っている事務用の椅子。

○油本委員

そんなするんですか。

○中原教育総務課長

はい。割と高いものです。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

ちなみに、そういった購入ってもちろん慣例によってずっと行われてる、いわゆる、例えば言うなれば随契っていいですか、ずっと慣例どおりに行われてる仕入れの仕方でするんで、確認ですが。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

そうですね。金額によりますけれども、低い金額ですと随意契約っていう形になります。

○油本委員

分かりました。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

前田課長、お願いします。21ページです。コウノトリの件です。6目の文化財のところの工事請負費177万1,000円計上されております。これ、単町費ですよ。いわゆる国の天然記念物の巣塔ですよ。それ、単町費でやっちゃうっていうのは、国とか県とかから補助ないんですか、伺います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

私も本当にいただきたいところなんですけども、そういったところから出る補助金がないので、単町費でないと造ることができません。一応、要望は出しておりますけど、いろんな要望のタイミングでは要望は出しております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

これ、1本ですか、建てるのは。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

1個です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

何度か付近通ったことあるんですが、同じレベルのものをまたお建てになるんですかね。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

コウノトリの郷公園のほうともお話しさせていただきながら、コウノトリの郷公園のほうがこんな形で造ったらいいですよっていうような設計図みたいなものも出しておられるので、それによって造らせていただこうと考えております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

細かいことを言うようですが、積算根拠とかそういうのは取ってらっしゃいますか。見積りを何社かから取られましたか、伺います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

今現在のところ1社しか取っておりませんが、もちろん造るときは何社か見積りとか、金額によってちゃんとした形で、1社で随契するというようなことは考えておりません。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

177万円、国の天然記念物にこれだけ使うっていうことが私もちよっとあれって思ったもんですから、質問させていただいたわけで、必ず精査していただいて、ほかにもたくさんお金の要る事業もございますので、カットされるものもあると思います。(ほか

の事業が)カバーできますように、それは鋭意お願いしたいと思います。

続きまして、21ページ、同じところなんですけど、下のほうで、文化財の件です。遺跡発掘の件ですけども、これ、北尾のところで始めるということをお願いしました。町内掘ればやたら出るんでしょうけども、これ、北尾で掘られるのは何か根拠があつてのことですか、伺います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

北尾の試掘調査については、北条川河川改修と県道の上井北条線の改良工事が予定されており、そういう道路とか河川とかを触られるときには必ず試掘調査が必要なところなのかどうか、まず遺跡の範囲かどうかっていうのを確認しまして、必要ということで今回この補正予算のほうを計上させていただいております。

○油本委員

分かりました。

○町田委員長

よろしいですか。ほかにございませんか。中山委員。

○中山委員

予算書の16ページをお願いします。職員手当のところは金額が上がってるんですけど、未満児の数が多いために保育士が必要だというふうに説明を受けたんですけども、申込みは前年の11月ぐらいからあると思うんですけども、その時点では分からなかったんでしょうか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

その時点で把握している数字もありますけれども、そこでまとめ切れなかったものもありますので、実際4月にスタートするときには、当初予算時の人数よりも増えておりますし、その後も途中で入ってこられる方もありますので、そういったものも含めての人数となっております。未満児の数については予算編成時よりも、ちょっと数字が調べないと今はっきり出てきませんが、増えております。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

それに関わってなんですけど、職員ってすぐ見つかるもんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

なかなか見つかりません。大変苦慮しております。ハローワークで募集をかけたたりですとか、あと、園のほうから園長なりが個別の人脈を使って声かけさせてもらったりだとか、あと、採用の区分も何区分かに分けて採用しております。フルタイムのような形の方と短い時間のパートの方とか、パートで既に採用している方をフルタイムになっていただけないかっていうお願いもしたりしながら、何とかして人員確保に努めているところです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

当初予算で少し水増ししてって言ったら変ですけども、増える可能性があるので、

その分の職員も充てたいということとはされないか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

できればしたいですけれども、なかなかそこまではしていません。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

利用する子どもたちの安全面とかを考えると、やっぱり増えた時点ではもう職員の数  
がそろっているほうがいいと思うので、足りません、増やします、時間のずれがありま  
すっていうのは保育の環境としてはどうかと思うんですけども。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

担当課としてはありがたい御助言だったり、後押しかなというふうに思っております。  
なかなか財政的などころもあって、そこに余裕はないかとは思っておりますけれども、  
気持ち的にはやはり希望があればいつでも受け入れるような体制はつくりたいなという  
ふうには思っているとこです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次に、先ほどもありましたけども、コウノトリの巣塔ですけども、この前の年にも  
造っていると思うんですけど、巣塔、造ってないですかね。造った巣塔ってコウノトリ  
は実際利用してるんですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

コウノトリの巣塔については、今、個人の方が自主的に造られた巣塔が2つあります。  
最初の年にしたのは電波塔でした。その年の途中、営巣が終わってから来るかもしれな  
いということで、二グループ、個人の方と一つのグループの方がそれぞれ造られました  
が、残念ながらそこには営巣しなくて、今年は電柱にしたという形になりました。なの  
で、造って来ない巣になるっていうのは私たちもすごく怖いところで、おっしゃるよう  
に177万円というのは決して安い金額でないというのは私も思っておりますので、前回  
の足輪つけのときにどの辺に巣塔を建てたら来そうかっていうところについて御助言  
いただいたり、だからといって絶対そこに来るわけではないですが、より来やすい場所  
については御相談させていただいて、場所選定のときに参考にさせていただいております。

すみません、先ほどちょっとコウノトリの関係で、油本委員から全然補助がないか  
というお話があったんですけども、もう一回確認してみないといけないんですが、国庫補  
助金の中で、200万円を超えたらっていうのはあったんですが、そこが巣塔の建設に入  
るか、建設の200万円の中に入るかどうかっていうのはまた確認が必要ですが、全くな  
いっていうわけではなくて、200万円を超えたらある補助金もありますが、それが巣塔建  
設が該当になるかは、確認を取らせていただきたいなどは思います。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

それだったら、もうちょっと立派な巣塔にして200万円超しちゃったらいじゃない

ですか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

はい。その部分については、はい、検討してみます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

あわせて、聞かないでおこうとは思ったんですけど、聞いちゃいますね。コウノトリ、今来てますよね。巣塔造りますよね、気に入りました。仲間呼んできます、どんどんどんどん増えちゃいます。巣塔もどんどんどんどん増やしちゃうんですか。例えばコウノトリで有名な北栄町みたいな、コウノトリの郷鳥取県版みたいなまで造っていく、そこまでのビジョンをお持ちかどうか伺います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

そこは今のところ、結局は同じつがいが帰ってくる形になるので、どんどん増えるっていうのは今のところ考えておりませんし、これから増やしたいっていうふうにも考えてないので、ただ、これは自然にやって来るものなので、初めて来たときから拒むこともできなければ、どうもすることができない、どっかあっちに行けとかができるわけではないので、コウノトリが国の天然記念物である以上、来たら考えていくっていうようなやり方になるのかなというふうには考えております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

誤解があっちゃいけないんで言いますが、私は決してコウノトリさんがいらっしゃいますのに反対じゃございませんので、それは申し添えます。以上です。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

私も一つだけ、コウノトリについてお聞きしたいんですけども、今年、巣を作った電柱の上のすぐ近くに、先ほど言われたグループなのか個人の方かは分かりませんが、あるんですね。しかも、高さは電柱よりもちょっと高いぐらいのありました。全くそこには見向きもせずすぐ隣の電柱に巣を作ったわけですね。だから、場所の選定というよりは、何かほかにもコウノトリが選ぶ選定基準みたいなものがあるんじゃないかというふうに思いますので、もう一つは、農産物なんかの自然栽培っていうか、そういうものもやっぱり先進地では進めているということもあるようですし、そういった対策も、これからずっと来るということであったり、増えたりするっていうことであれば考えていかなきゃいけないのかなというふうに思うんですけども、2点お聞きしたいと思います。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

まず、2つ造られた部分については、1つは40メートルぐらいのところの近くだったっていうところで、やっぱりより高いものがある場所の近くでは営巣は難しいだろうということで、少し離さないとならば多分コウノトリは来ないんじゃないかなというのはコウノト

りの郷公園の方からもおっしゃってたので、その部分についてはより来るであろうというところで、あとは、おっしゃったように、周りのほうの地権者の方とかの了解もないと、コウノトリは自然の生き物なので、そういうことで御迷惑がかからないようにというところも必要なことだと思っております。ですので、巣塔建設に際しては周りの地権者の方の了解も得てというふうなところは考えております。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

非常に電柱の下はふんだらけ、道路が白くなってました。住宅地ではないのである程度は我慢できるにしても……。それだけではなくって、今もまだ巣が残ってますよね。電柱にああいうものがあると、やっぱり送電に支障を来す場合も出てくると思うんですよ。そういう関係もあるので、今の作られた巣をどうするのかということも含めて、何か検討をされているんでしょうか。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

中国電力が下ろされるときに、その巣材は全て町のほうが頂いて、やはり今回使ったってことは、多分匂いがついとるとか、鳥取の気高のときも最初から人工巣塔のほうに行かなかったの、運んできた巣材を持っていったってことで営巣成功したという事例もありますので、今回下ろされる巣の材料については、うちのほうで保管して、巣ができたタイミングでその巣材も乗せて巣塔のほうに使いたいと考えております。

○長谷川委員

終わりです。

○町田委員長

ほかにございませんか。よろしいですか。

それでは、その他でお願いします。斉尾委員。

○斉尾委員

ちょっと議案にはないんですけども、通学路のことで、中学生が通学するとき、自転車ってというのは車道を走れというように指導されてると思うんです。ところが、横断歩道があるところって、横断歩道がありますよっていう、そういう標識立ってますよね。それが、車道との境界の縁石から多分10センチぐらい歩道側の内側に入ってる。だから、その部分がちょっと狭くなってるんですね。今回の場合は並列で走ってた中学生がそれにぶつかりそうになって倒れて、車道にどんと落ちたと、田舎道だったので、車が来てなかったから幸い事故にはならなかったんですけど、その辺の指導ってというのはどういうふうにされてるのかなということをやちょっと。ちゃんと車道を走るようにという指導はされてるってということなんですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

交通ルールを守れというようなことでは伝えております。ただ、車道を走れという細かいところまで指導しているかどうかは確認しておりませんが、原則車道だと思いますし、一部歩道でも走れるところがあるかと思っておりますので、そこはきちんと交通ルールに従ってだと思っておりますし、ただ、今のお話聞く限りですと、並列であったりだとかいうようなことで、なかなかきちんと交通ルールが守れていない中で起きた事故かなというふうに思っておりますので、そこについては、やはりきちんと交通ルールを守ってくださいってというような指導はすべきだと思いますし、もしよろしければ、どこでい



つぐらいにあったことかかっていうのを教えていただければと思います。学校のほうがきちんと把握しているかどうかというのも、確認はしたいと思います。

○町田委員長  
齊尾委員。

○齊尾委員  
これは、民生委員さんから話があったんで、どういう指導をされてるのかなっていうことで今回お聞きしました。じゃあ、後でお知らせします。

○町田委員長  
よろしいですか。中山委員。

○中山委員  
タブレットのことなんですけれども、リプレイスがあと数年で起こると思うんです。その辺の、何ていうんですかね、計画とかかっていうのはあるんですか。

○町田委員長  
中原課長。

○中原教育総務課長  
まだ町として更新の検討を行っているわけではありません。ただ、国のほうから聞こえてくる情報ですと、一部予算措置をされるのではないかというようなところがあります。金額もかなりの金額になりますし、それもほぼ一度に入れた形になりますので、これをまた一度に更新するとなると、大変な金額が必要になってきますので、まずは国のほうの動きっていうのを把握した上で、更新計画を考えていきたいと思っておりますし、できる限り使えたらなというふうに思います。

○町田委員長  
ほかにございませんか。ないようですので、以上で教育総務課、生涯学習課の質疑は終わります。ありがとうございました。  
それでは、ここで休憩に入りたいと思います。35分から始めます。お願いします。

(10:19)【中原教育総務課長、前田生涯学習課長 退室】

(10:19~10:33)【休憩】

(10:33)【磯江総務課長、中野企画財政課長、藤江町民課長、友定出納室長 入室】

## (2) 総務課・企画財政課・町民課・出納室

○町田委員長  
それでは、再開いたします。  
総務課と企画財政課と町民課、出納室においていただいておりますので、その関連の決算について質疑をお願いいたします。油本委員。

○油本委員  
では、まず、主要施策の成果の9ページ、磯江課長、まずお伺いします。中ほどの交通安全施設の件ですけれども、これカーブミラー修繕とカーブミラーの設置、表にしてございます。カーブミラーは39基が令和3年で、令和4年が22基に減ってます。カーブミラーは2基から1基に減ってます。まず、この減った理由の説明をお願いします。

○町田委員長  
磯江課長。

○磯江総務課長  
カーブミラーの設置については、主に自治会要望という形で出てきて、そこで必要かどうかの判断をして、必要だったら設置をするということです。ですので、設置については要望の有無で決まってくるというものですので、1基が減ったというものではなく

て、必要なものが1基だったということです。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

それは大体推測できるんですが、成果に関しまして、カーブミラーの設置、修繕により、町内の交通安全に寄与したとあります。これ、去年と全く同じなんですけども、これでいいんですか。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

同じがどうなのかということなんですけど、基本的には、壊れたものがあればそれを修繕するという対応ですので、新設、修繕によりということ、毎年やってることは特に変わりがないってことで、成果も変えていないということです。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

次に、めくっていただいて、10ページお願いいたします。中ほどの総務費の1款14目の防犯対策事業のところ、こちらが公設防犯灯の整備なんですけど、令和2年から順番に26、35ときて、今度18に減ってるんですよ。防犯カメラに至っては、令和2年が1に対し、令和3、令和4はもうゼロなんです。まず、その理由を伺います。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

防犯灯につきましても同じです。自治会要望で出てきたものについて判断をすることです。自治会の中にあるものについては自治会が設置をしてください。ただ、自治会と自治会の間であって、どちらの自治会がするのか分からないようなものについては町が設置しますということです。そういう状況ですので、自治会要望で、防犯灯の設置が必要だというものについて町が18灯整備をしたというものです。

それと、防犯カメラについては、防犯交通関係で町が設置したものは、何ていいますかね、町費ではございません。これは、令和2年度の設置は、倉吉地区の防犯協議会が各町に順番で助成をしていって、そこで北栄町の順番に当たったので令和2年は設置をしたと。こちらは、米花商店街の駐車場を見るみたいになりました。来年、北栄町の順番が回ってくるので、また来年1という数字が加わるってような形です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

また同じく、これは成果の表現の仕方なんですけど、防犯灯、防犯カメラの整備により、町内の云々とあります。防犯カメラ、これ整備してないのに、何でこれこういう成果になるんですか。整備だけはしたんですか、伺います。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

確かにそうです。整備はしてないので、その記述はよくないなという、確かに指摘を受けてそう思いました。ただ、維持管理的なものはしているということなんですけど、そういう指摘ですので、そのとおりだと思います。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

素直にそう認めていただいたらいいんですが、維持管理はされた、それは評価をさせていただきます。ただ、総務課長ですから申し上げるんですが、総務課にかかわらず、ほかの課に関しましても、この成果に関して、去年、おととしと同じ文章を、繰り返し同じフレーズを載せていらっしゃるところが散見されます。それに関してちょっともう一つ、何ていいますかね、工夫を加えられるとか、適切な表現を年々用いられたほうが説得力があるっていいますか、こういう成果をしたんだという自分たちに自負があるならば、そこをもう一回考えられたほうがいいと思う、次から。いかがですか。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

確かに、御意見ごもっともだと思います。ただ、経常的な事業をずっと毎年やっていく場合に、成果がちょっと書きにくいなっていう部分も……。ちょっと言い訳になりますけど、御意見いただきましたので、次からきちっと検討させていただきます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

成果が書きにくいのであれば、書きやすいように各課が書けばいいんですよ、成果ですから。成果を書くということは、我々議員に対して理解してもらうためにあなたたちは書くわけですから、あなたたちが主体じゃないんです、読むほうが主体なんです。そのスタンスは理解していただきたい。この議論はここで置いときます。

次に行きます。12ページ、消防費、よろしいですかね。こちら定員に対しまして、ずっと定員割れが、これ続いております。それに対して消防費、ずっと上げてらっしゃいます。消防団活動費上げてらっしゃいますけども、定員割れに対して何らかの対策をこれ取ってらっしゃるんですか、伺います。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

毎年、ちょっと詳細は分かりませんが、5人ぐらいの新加入団員がございます。ですけど、また同じぐらいの退団もあるということで、ここの数が増えてないように、そのままのように見えますけど、新陳代謝は中で行われていて、一生懸命補充の団員を見つけようと努力はしております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

私が伺ってるのは、新陳代謝を伺ってるのじゃなくて、団員の総数を伺ってるんですよ。定員に対して92であるとか、93であるとか、定員に満たない状態が続いている。それに対して増やす努力はされているのか、私はそれを問うているんです、いかがですか。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

団員のほうに、不足になってるので、適任者があれば見つけてくださいというようなお願いは、ずっと継続してお願いをしております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

ということは、それに対してまだ成果が出ていないんだが、努力はしているというふうに聞かせていただきます。あわせまして、分団の方から直接聞いたんですけども、火災等の災害時に、常時出動できる体制を整えるための定員が割れる、その状態が続くようならば、今5つある分団、これの再編成とか統合とか、それを考えてはいかがですかというふうに、今年の初め、いわゆる令和4年度の年末ですから、寒いときだと言っていました。その頃に分団の統合・編成を訴えたところ、その会議の中で、役場のほうからは、それはいい考えですからそれをしてみましょうかというふうに答えはあったんだけど、実際はそうになってない、言いましたけどそれはやめましたと。ただ、詳しい理由はそのとき聞いてないというふうに私聞いたんですよ。まず、その記憶はありますか、課長。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

私の中では分団の再編成については、承知をしておりません。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

繰り返します。例えば、北条の2つはいいとして、第3、第4分団を統合して、つまり、統合することによって守備範囲は広がりますけどもね、いわゆる対応できる人数が増えるということは、いざというときに出動しやすい体制がつけれるということで、そういうふうに意見したと言ってますが、その記憶もないんですね、伺います。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

私が聞いているのは、再編という形ではなくて、瀬戸の分団から昼間に出動できる団員が少ないと、昼間どうしても仕事に出てしまっておったりするので、昼間が少ないと。夜はもう仕事から帰ってきますんで夜の対応はできるんだけど、昼間ができないと。ということで、それは団の中で話し合っ、昼間の火災については全分団が出動しようということ、そういう対応になったので、その辺の、団員不足は解消されたということは聞いております。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

今おっしゃいました昼間の火災の件ですけども、大栄庁舎におられる北条分団、いわゆる第1、第2分団の方を第3、第4、第5分団がカバーする、いわゆる大栄地区の火災に、もう一回言いますよ、大栄庁舎内におられる消防団員の方で、第1、第2に属される方を、昼間の大栄エリアの火災に派遣する、そういう案も出たらしいんですけども、そういうことは検討されましたか、伺います。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

そういう検討ではなくて、先ほど申し上げましたけど、昼間の火災の（対応する）人が少ないので、昼間については全分団が出ましよう、全部、出ましようということで、その辺は解消されているということで私は確認、承知してますけど。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

すみません、しつこくなるようですが、確認です。でしたら、先ほど私が言いますように、昼間の火災に関しましては、例えば第1から第5まで、分団を問わず、全部消防団の方が出動するように、そういう体制を今は取ってらっしゃる、そういう指導をしてらっしゃる、そう思ってよろしいですね。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

はい、私はそのように承知をしております。

もう一つ申し上げますと、昼夜ではなくて、土日祝祭日、夜は普通、土日も団員は家にいますんで、単純に平日の昼間だけがという、そういう対応です。

○油本委員

了解です。

続きまして、主要施策の成果の16ページをお願いします。16ページの中ほどやや下、コナン駅広場管理事業で241万3,000円計上されてます。ちょっと伺いますけど、これは具体的にどういうことをされたか、書いてありますけども、トイレ掃除とかそういうのだけですね。取りあえず、内容につきまして書いてあるとおりに思ってよろしいですね。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

はい、書いているとおりです。シルバーさんに委託をして、トイレの維持管理が主なものです。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

由良駅の管理、トイレに関することなんですが、以前にもちょっと申し上げたこともあるんですが、別の場所で。由良駅の男子トイレなんですけども、これ外から丸見えなんですよね。意味分かりますかね。由良駅から、3台臨時で止められるところから向かって右側奥、右側にトイレございます。実は、数日前なんですけど、私ちょっと観光協会に行き、自分の止めた駐車場に行こうとしているところを、その中央育英の男子生徒1人と女子生徒2人が、ちょうど立ち話しているところだったんですよ。ちょうどタイミングよく男子生徒がトイレに行こうとしたんです。そしたら女子生徒が、ちょっとやめてよそんなところで、丸見えじゃないよという声が聞こえたんですよ。私はその場所で女子生徒に聞きました。じゃあ、どうしたらいいと思うって言ったら、ちょうどコナンの顔を出す写真用のパネルを駐車場のところ置いてらっしゃいますよね、3台あるところに。その女の子は即座に、こういったパネルを男子トイレの入り口に置くことによって、中が見えなくなるんじゃないのというふうなことを言ってました。1年生の女の子さんでした。結局男の子は、恥ずかしくてトイレ使われるのをやめたんですけども、そういった意見が出ているんですよ。ですから、今回の成果といいますか、令和4年度はこれで終わっても、ちょっと次の話になっちゃうかもしれませんが、それも視野に入れて今度は考えられたほうがいいかなと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

維持管理のほうは、令和5年度から企画財政課のほうに総務課から移管になりました。既に、冬場の水道の凍結のことだったり、風があそこはまともに当たる構造になっているので、その辺も含めて、ちょっと対策は考えないといけないなどは思っています。その中で、どういう形になるかはこれから考えますけど、外から風が入りにくいだとか見えにくい、そういう工夫は必要だろうと思っっていますので、考えていきたいと思っいます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

トイレの凍結の問題ね、前言いましたように、寒いときにバスが止まります。バスの運転手さんがトイレを使おうと思ったら水が出ない、どうしたらいいんだと観光協会に行かれたこともあったそうです。ですから、今おっしゃいましたように、その辺の御一考をお願いしたいと思っいます。さらに申し上げますと、今の由良駅というのは、できた当時の由良駅と違っまして、いわゆる観光で売っっていく北栄町の、いわゆるゲートウェイといっますかね、入り口になるわけです。ですからそういっただ、極端に言えれば美化とかね、そういうイメージアップに努めて、見えないようにはもちろん、風が当たらないようにはもちろん、そういっただことをまた今後頑張っっていただきたいと思っいますが、予算の話になっっちゃいましたけど、すみません、一言あれば。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

おっしゃるとおり、以前に比べて観光で訪れていただく方もかなり増えてきていますので、その辺りはやっぱりちょっと視点を變えて対策をしていく必要があるなと思っますので、考えたいと思っいます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

御理解ありがとうございます。次に、最後にしますが、18ページをお願いします。上の5番のしあわせ創生事業の件でお伺っしますけども、こちら、カップル成立が令和3年度11組、これが今回22組になってるんですよ。倍増してらるんですが、これはいいことだと思っるんですよ。予算が令和3年が初め54万5,000円から令和4年度143万円に増額されてる、倍以上、3倍近く増えてらるんですが、これは、その成果なんですか。具体的に何が原因だっただのか伺っいます。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

しあわせ創生事業の143万円、総額は結婚新生活支援事業補助金も含まれていまして、イベントの経費だけは毎年20万円ということで変わりはありません。カップル数が増えただことの予算との関係ですけど、そこに予算のことは関係なくって、連合への委託20万円です、イベント経費につきましては。ただ、カップル数が増えただっていうことは、イベントのやり方を少人数規模に變えて、話がしやすいとか、大人数でやるよりは、ある程度少ない人数でコミュニケーションを取りながらっていうイベントに工夫したところが成果かなと思っいます。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

さすが、すばらしい成果上げられまして、今後も期待しておっります。先ほど言っまし

た増額の件ですが、ポツの何個目かに新婚生活支援補助金、これが令和3年度30万円から結局これ120万円、ですから90万円アップしてます。そのせいで総予算が増えたかとは思いますが、こういった支援事業も、どんどんどんどんカップル成立に結びつく要因かと思しますので、今後ともこういったことに目を向けていただいて、この創生事業、私も個人的には、もう息子結婚してますけども、周りを応援したいと思しますので、今後とも頑張ってください。以上でございます。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

ありがとうございます。イベントのやり方については、その都度アンケートも取って工夫しながらやっていますので、今後もカップルが増えれば良いなと思っています。ありがとうございます。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

主要施策の成果の11ページ、総務費、選挙啓発費の成果の中に、町内の高校で主権者教育に関する授業を実施するというふうにあるんですけども、町内の高校といえば1校しかないの分かるわけですけど、そこに行っている町内の生徒の数はかなり少ないと思うんですね。そこに対して町費を使って主権者教育をするっていうのは妥当なのかどうか、必要なことなのかどうかということなんですけども、どう考えておられますか。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

これまでからずっと中央育英のほうでやってきているということで、それをずっと継続をしているということです。人数っていうのは少ないのかもしれないですけど、おられる限りそういう啓発は必要なんだろうなということで、妥当性はないってなかなか言いにくいのかなっていうのはありますけど、必要なことなんだろうと考えてます。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

教育自体は必要だと思うんですけども、町外から来られてる方については、町外が負担すればいいことだと単純に考えるんですよね。町がこれを出してる部分があると思うんですけど、例えば県からもらってするとかっていう方法はないんですかね。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

費用的にはほとんどかかってない、費用の大小で語るっていう話ではないのかもしれませんが、ちょっとそういう発想に今までなってなかったものなので、県とかと話し合いをしてみたいと思います。ただ、何ていいますかね、高校生議会とかっていうのも、じゃあ、町民がっていうようなことでもないですし、やっぱり町内にある高校っていうのはいろんなことで支援をしていったりいろんなことが必要なのかなと思います。県等と負担について、ちょっと協議してみたいと思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次、13ページ下段の空き家等対策事業ですけれども、老朽化危険空家4軒について除却費を助成されてますけれども、これ全体として、この危険空家っていうのは何軒あって、そのうちの4軒なのかということを知りたいんですが。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

空き家の軒数というのは、そこの表の下で、279件あるんですが、これは適正な管理もされている空き家も全部含みますんで、何ていいますかね、ちょっと危険性があるという、数のデータを今忘れちゃったけど、40ぐらいは危険なのはあるのかなっていうふうなことで、申し訳ないです、数をまた後で報告をさせていただきます。

○町田委員長

次に進みます。中山委員。

○中山委員

じゃあ、15ページ、総務費、広報事業のホームページのところなんですけれども、表があります。令和4年度、外国人向け紹介動画の作成ゼロなんですけれども、(担当が)おられなくなってしまいました。これはもうつくりませんか、それともつくれなかったのか、どっちなんでしょう。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

令和4年度に関しましては、つくりなかつたほうです。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

それは何か理由があつてつくりなかつたんですか。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

コロナ禍で、職員も模索はしていたと思うんですけども、それまでは活発にある程度動いてはいましたけど、ほかの業務との兼ね合いもあつて、ずっと1人で抱えていたので、ちょっと業務量的にも無理なところもありましたし、外国から来られる方もいらつしやらなかつたということもあつて、少し事務のほうを止めていました。これからかかるかなと、取りかかろうかなというところでした。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

分かりました。ありがとうございます。あと、その表の上のところの見方が分からないんですけども、フェイスブック、いいねの数と投稿数、それからツイッター、インスタグラム、ユーチューブも同じような形でフォロワー数、投稿数っていうふうにしてあるんですけど、例えば、ツイッターのフォロワー数っていうのは、2年度にプラスして3年の、例えば、2年度が2,728ですね。3年度が3,365、4年度が4,661というのは、これはトータルですよ。追加の分、新規の分ではないですよ。いいねのところは4,112、4,480、4,922で、これは、いいねっていうのは、投稿に1つずついいねがついてくると思うんで、新規というか個別だと思うんですけど、こういう書き方で何か流れっていうのは分かるんですかね。

○町田委員長



- 中野課長。
- 中野企画財政課長  
多分、どの数字を拾うかっていうことになると思うんですけど、それぞれの年度末で、年度末で数えたときに、例えば令和4年度、フォロワー数が全部で4,661、年度で投稿した数が423、そういう拾い方をしてます。
- 町田委員長  
中山委員。
- 中山委員  
そうすると、例えばユーチューブを見ると、令和3年が1,680のフォロワーに対して、令和4年が1,880っていうことは、200増えましたよということですよ。これは、200も増えたと考えておられるか、200しか増えてないと考えておられるか、その辺、どうですか。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
基準ですけど、例えば、北栄町の人口に対して、この町の規模に対して、じゃあ、どの程度のフォロワー数があれば適正なのかっていう判断は、すごい難しいと思っていて、ただ、する以上は、ある程度目標を定めてしないとイケないとは思っていますけど、これが多いか少ないかっていう判断は、ちょっとできないです。
- 町田委員長  
中山委員。
- 中山委員  
ちなみに、目標ってどのくらいなんですか、年間純増数。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
純増数の目標値っていうのは定めてません。本当にそこが、じゃあ幾らだったら達成できるとかっていうことがなかなか定めづらいところだと思っています。そこは今の課題かなと思っています。
- 町田委員長  
中山委員。
- 中山委員  
例えば、年間500増やしましょうっていう目標を仮に立てたとして、途中で300まで来ました、もう一息ですっていうんだったらやる気できてくると思うんですよ。でも、目標ないので適当に増やしてくださいだったら、いつまでたってもこの程度じゃないかなと思うんですね。だから、しっかり目標を立てられたらいいと思うんですけど、どうでしょう。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
まず、媒体によって使い分けはしていて、年齢層だったり、男性女性だったり、海外向けだったり、そこはちょっと工夫しながらはやっていますけど、そのじゃあ幾らかっていう目標の設定については、今、中でも検討をしていますので、しっかり目標は定めたいと思っています。
- 町田委員長  
中山委員。

○中山委員

使い方を年齢で分けたりとかされてるということでしたけど、今、連携がすごく多いんですよ。例えば、ツイッター見てるとユーチューブへのリンクがあったりとか、ユーチューブ見てると、ツイッター、インスタ、フォローしてねとかっていうことで、みんな連携してきてるんですね。で、連携してきてるっていうことは、入り口はそれぞれ違うんだけど、全年齢に対してアピールができるようになってるはずなんですね。町もやっぱりそうするべきだと思うんですよ。じゃないと、もうユーチューブは高い年齢です、ツイッターは低い年齢ですとかって分けてしまうと、それは何かもったいないと思うんですけども、その辺の使い方の改善してください。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

いろいろやり方は勉強してみたいと思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

次、17ページです。交通対策事業、鳥取砂丘コナン空港連絡バスのところなんですけども、ちょっと仕組みがよく分からないんですけど、令和2年度の補助金74万円、令和3年度74万円、令和4年度54万9,000円で、利用者については190人、416人、1,483人。利用者増えて補助金額が減ってる、この辺りはどういう関係になってるんでしょうか。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

空港の連絡バスが、飛行機の便に合わせて接続するような形での運行にしています。1回の運行費用が幾らっていう、バス会社からこれじゃないと採算取れないよっていう金額を基準にしていまして、利用者が増えているので、その利用料が、バスの乗車賃が入ってくるので、赤字の補填的どころが減ってきたっていうことです。

○町田委員長

いいですか。

○中山委員

以上です。

○町田委員長

ここで、磯江課長より、先ほどの回答を。

○磯江総務課長

空き家の数なんですけど、13ページの下のほうに、総トータルとしては279軒あるということで数を書いておりますが、空き家をA使える、B直せば使える、Cはちょっと難しい、Dは危険だみたいな、そういうA、B、C、Dで判定するんですけど、A判定が79、B判定が135、C判定が33、D判定が32です。補助金対象となるのがC、D。CとDになっているものについては補助の対象になると。ですので、たくさん問合せがあるんですけど、ほとんどは補助金が使えないというような形です。ちょっと余談ですけど。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

すみません、確認ですけど、32と33で65あって、65のうち4軒の今回助成が出たっていうことでいいんですかね。それとも、助成が出て、なくなった残りが65なのか。

- 町田委員長  
磯江課長。
- 磯江総務課長  
4軒除却をして減って、最終的に65になったと。この数は年度末の数字です。
- 町田委員長  
よろしいですか。
- 中山委員  
はい。
- 町田委員長  
次に進みます。ほかにございませんか。長谷川委員。
- 長谷川委員  
決算書の51ページ、上段にあります一般管理費、12節なんですけれども、当初予算から500万円ほど増額になっているんですけれども、どのようなものが増えたのか、説明があったのかもしれないけれども、お聞かせ願いたいと思います。
- 町田委員長  
磯江課長。
- 磯江総務課長  
不用額500万円が出た理由っていうのを申し上げればいいか。
- 長谷川委員  
当初予算では、委託料は1億2,525万円になっているんですね。補正か何かあったと思うんですけれども、決算のほうでは1億3,007万8,579円ということで、ざっと500万円ほど増えております。一方で不用額が、先ほど言われたように、487万4,000円あります。これの内容を教えてくださいということですよ。
- 磯江総務課長  
ちょっとすみません、また後でちょっと。
- 長谷川委員  
ほかの質問はいいですか。
- 町田委員長  
長谷川委員。
- 長谷川委員  
この中に窓口庶務業務の委託料が、令和4年度の当初ですと2,617万9,000円あるわけなんですけれども、これは、決算でも同額でよろしいんでしょうか、そう見ていいか。
- 町田委員長  
磯江課長。
- 磯江総務課長  
窓口委託のところは、当初予算で2,617万9,000円、決算額は2,618万円です。不用額としては932円しか出てないので、窓口委託は当初予算どおりの支出ができています。そこで不用額は起きてないです。
- 町田委員長  
長谷川委員。
- 長谷川委員  
この窓口庶務業務の委託料以外に、この委託事業に関連して、例えば設備だとか備品だとか、そういう支出はあったのかなかったのか、教えてくださいと思います。
- 町田委員長  
磯江課長。
- 磯江総務課長

ありません。

○長谷川委員  
なしですね。

○磯江総務課長  
はい。

○町田委員長  
長谷川委員。

○長谷川委員  
もう一つお聞きしたいんですけれども、主要施策の成果には、窓口庶務業務の委託についての成果が載ってないんですけれども、これは載せるべきではないかと思うんですけれども、その辺はなぜでしょうか。

○町田委員長  
磯江課長。

○磯江総務課長  
主要施策の成果4ページの一番下のところの話ですかね。4ページの一番下⑥、その部分。

○町田委員長  
長谷川委員。

○長谷川委員  
すみません、私が見落としてました。これは、やっぱり、成果ということですから、どういう成果があったのかっていうことが具体的にやっぱり投資対効果ということですから、効率化を図ったというだけでは、ちょっと中身がよく分かんないんで、ここはやっぱり表にしてもらおうとか、3年なら3年の経過を示していただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○町田委員長  
磯江課長。

○磯江総務課長  
特に、行革として導入するに当たっては、それぞれ費用対効果みたいなことをそれぞれ判断をしてこれまでやってきたと。最初は、平成27年ぐらいからずっとやってきたっていうこともあって、今回はもう行革という視点ではなくて、例えば、普通の業務委託、例えば植木の管理の業務委託ですとか、消防施設の管理ですとか、そういう経常的業務というような形で見えていくということになったので、今までは企画のほうの行革という視点での事業扱いだったのが、今年度からは通常の経常経費として扱うということで総務課が対応することになりましたんで、今のところそういう別の資料でというようなことは、今のところ考えておりません。

○町田委員長  
長谷川委員。

○長谷川委員  
私としては、いわゆる通常の業務の状態ではないというふうに思っていますので、民間に役所の仕事を委託するわけですから、やっぱりそこは常に追っていかなければいけないというふうに思っていて、ぜひそこは検討していただきたいというふうに思います。以上です。

○町田委員長  
磯江課長。

○磯江総務課長  
今のところは私が申し上げたとおりということなんですけど、御意見いただきました

ので、ちょっと検討してみたいと思います。

○町田委員長

ほかにございませんか。中山委員。

○中山委員

18ページのしあわせ創生事業の成果のところ、カップル成立数22組ってあるんですけども、内訳が知りたいです。というのが、町内の方が男性で成立したのか、町内の方が女性で成立したのか、町内同士で成立したのかということが知りたいんですけども。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

ちょっと後でお答えさせていただきます。

○中山委員

はい。

○町田委員長

次、進みます。津川議長。

○津川議長

すみません。決算書の226ページの財産調書のところです。栄財産区の特別会計の財政調整積立基金で、決算年度中の増減高がゼロ円になってますが、ちょっと私の拙い記憶で申し訳ないですけど、これ毎年少しずつ増えてきてると思うんですが、今回ゼロなんですが、これなぜ。これ間違いないんでしょうか。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

これまでは通常幾らかずつ補正をして積立てをしてきたかと思うんですけど、令和4年度は、積み立てる予算がもともと組んでなくて、補正のタイミングを逃してしまったということで、これまでに比べてかなりの額の繰越しを出しています。その分については令和5年度のどこか、12月か3月か、積立ての予算を計上して積み立てたいと思っています。

○町田委員長

津川議長。

○津川議長

今ちょっと調べてみましたら、令和3年度の補正予算では栄財産区の補正が組んであったんだけど、令和5年の3月議会、令和4年度の補正が組んでなくて、ないようでした。これ何か理由があつてなんですか。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

特に理由はありません。

○津川議長

はい、結構です。

○町田委員長

ほかにございませんか。磯江課長。

○磯江総務課長

長谷川委員の最初の委託料の関係でございます。不用額が出たのは電算処理委託料です。補正が300万円、400万円ぐらいの追加があつたのは、ふるさと納税の北栄基金のほ

うで、増やしたのは基金のほう、不用額があったのは電算処理の委託料の科目でございます。同じではないということです。

○長谷川委員

分かりました。

○町田委員長

よろしいですか。それでは、ございませんね。それでは、次に進みたいと思います。補正についてお願いします。油本委員。

○油本委員

すみません、13ページの中ほど、また由良駅に関わることなんですが、9日企画費の委託料の中で31万6,000円入っております。すいません、これはJRと覚書されて6月28日、譲渡に関する必要経費というふうに伺ったと思うんですけども、これ具体的に何をどうされるのか、御説明いただければと思うんですが。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

覚書でJRの持分と、備品1つ1つにつきましても、駅舎のスペースについても、どこがJRの持ち物でどこが町の持ち物でっていうのを明確にしました。その維持管理をじゃあどちらがするのかっていうこともその覚書の中で明確にしました。今後、トイレは引き続きなんですけども、駅舎の清掃だとか駅前広場の管理も町のほうがすることになって、その分の今回補正を上げさせてもらっています。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

今おっしゃいました、もちろん把握はできるんですが、広場とおっしゃいました。広場といいますのは、具体的にどこを指すのか伺いたいんですが、駅に今3台駐車できるスペースありますよね。それと横にフォトスタンドみたいのがあります。それと、さらに西側に今、工事のスペースが占めてる駐車場ありますよね。そこも全部含めてという意味でしょうか、伺います。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

駅舎の前の部分ですね、3台止められるその周辺、フォトブース、それから西側の広い駐車場全部です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

といいますのは、今は暑いですけど、そのうちまた大雪、可能性があります。除雪心配なんですけども、除雪の費用自体は地域整備課から出るにしましても、そういったいわゆる企画財政課さんが管理されてるエリアの助成及び駐車場の除雪に関しましての予算というものは、これまた別のところでまた上がってる、もしくは上げられるということですかね。ちょっと雪のことが心配なものですから伺います。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

除雪に関しては今、まず大雪が降った初日、2日目ぐらいはJR恐らく止まるだろうということで緊急性は考えていません。道路の除雪の途中に当たりますので、その途中

のときに余裕があれば除雪に入ってもらおうと思っています。以上です。

○町田委員長

よろしいですか。中山委員。

○中山委員

13ページ、光ファイバーネットワーク施設管理費の633万6,000円。説明があったと思うんですけども、もう一度説明していただけますでしょうか。

○町田委員長

磯江課長。

○磯江総務課長

これはケーブルテレビに加入される方のお宅に、壁に四角い物がつくんです、線を引いて。それONUなんですけど、こちら90台を買うということで、今回補正をお願いしているというものです。一般的に2、1、4目の財産管理費の備品購入費、告知機、加入されれば告知機が要る、テレビに加入されたらONUが要るっていうことで、普通だと一般的に数的にはリンクするのではないかなっていうことで、こっちが30台だったら、こっちも30台でいいのではないかみたいなことですが、今回メーカーのほう告知機については注文すればある程度の期間で入ってくるよっていう、そういう情報提供いただいているんですけど、ONUに関してはもう来年度造らないよ、計画的にかなり長いスパンでないと造らないよということがあって、今回90台を特別に補正追加をさせてもらったということです。

○町田委員長

補正についてございませんか。それでは、補正はよろしいですね。

その他についてお願いします。長谷川委員。

○長谷川委員

主要施策の成果について17ページです。④の交通対策事業の路線維持費補助金です。この表には、下の乗合タクシー運行支援事業費補助金のように、利用者数が載っていないんですけども、分かるのであればここも載せていただきたいというふうに思います。それと、この乗合タクシーのほうの各年度の利用者数というのは、これは延べ人数なんでしょうか。コナン空港の連絡バスについても、どういう数字なのか教えていただきたいと思います。

○町田委員長

中野課長。

○中野企画財政課長

まず、路線維持費の補助金のほうの人数ですけども、こちらのほうは、それぞれバス会社のほうから出てくる資料を基にして補助金を払っていますが、恐らく人数を拾ってはいないと思います。なので、人数ってというのは乗降もありますので、その路線の最初からずっと利用されている方ばかりではなくて乗り降りがあるので、そのカウントってというのはできません。それから、乗合タクシーと空港連絡バスですけども、利用者数は延べ人数です。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

乗合タクシーのほうなんですけれども、これ非常に増減というか、令和3年度に比べれば52人も増えてますし、令和2年度と3年度を比べれば逆に減ってるということなんですけれども、この辺の兼ね合いってというのは、利用される方ってそんなに変わらないというふうに思うんですけども、どういう理由でこういう変化があるのか把握されてれば、お聞かせ願いたいと思います。

- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
一定数、ずっと使われる方ってというのは、ほぼ決まってくるので、年度によっても利用される方、1人の方が複数回使われることで回数が伸びてくるっていう場合もありますし、回数少ないけど大勢の方に使っていただくっていう場合もあると思うんですけど、乗合タクシーに関しては恐らく固定の人がかなりの回数を定期的に使われるということで伸びてきているという具合には聞いてます。なので、年度によって、人によって変わってくるっていうことで結果が変わります。
- 町田委員長  
長谷川委員。
- 長谷川委員  
分かりました。それと、このコナン空港の連絡バスなんですけれども、これ令和3年度に比べると非常に大きく伸びているんですけども、その要因についてもお聞きしたいと思います。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
令和3年度はやはりコロナの関係で観光でいらっしゃる方っていうのはかなり減りましたので、飛行機の便も減ってましたし、その分が落ち込んでいるという状況です。
- 町田委員長  
長谷川委員。
- 長谷川委員  
コロナからの回復があったという、それでいいんでしょうか、そういう認識で。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
そういう認識でいいと思います。
- 町田委員長  
その他についてございませんか。油本委員。
- 油本委員  
すみません、中野課長、決算書の226ページの、基金のところなんですけども、別に開いていただかなくてもいいんですが、砂丘地振興基金、ずっと積んでらっしゃって、今残高、令和4年度分の決算が載っております。今実際に道の駅に利用されまして、ほぼゼロの状態です。基金というものは本来、増えたり減ったりする性質のものはたくさんございますけども、例えば、近い将来の話にはなると思うんですが、道の駅北条公園、たくさんお金使いましたけども、そこでかなり余裕が生まれた場合、この砂丘地振興基金これを増額するというか、積み増すというか、それをされるような御計画というのは今の時点ではございますか、いかがですか。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
砂丘地振興基金の活用につきましては、産業振興課のほうが管轄しておりますので、特に企画財政課としてこうしたいっていう考えは持ち合わせておりません。
- 油本委員  
かしこまりました。了解いたしました。



- 町田委員長  
よろしいですか。その他もございませんね。中野課長。
- 中野企画財政課長  
先ほどの中山委員からの婚活のイベントのカップル数ですけど、男性が4人で女性が3人です。それぞれも別々のカップルです。
- 町田委員長  
中山委員。
- 中山委員  
町内同士っていうのはないですか。
- 町田委員長  
中野課長。
- 中野企画財政課長  
町内同士はありません。
- 町田委員長  
油本委員。
- 油本委員  
せっかく藤江課長お見えですんで、主要施策の成果のところでもちょっとどうしても聞きたいことがありますて、25ページの一番上の個人番号カードの発行枚数、増えておるように記載されております。昨今いろいろ報道ありますように、やめてしまいたいとかいう声も聞こえてきますが、実際、今の動きっていうのは大体どうなんでしょうか。
- 町田委員長  
藤江課長。
- 藤江町民課長  
先月の行政報告会で数件あるというふうに報告させていただきましたけども、その後も自分の都合によって返したいというのは数件ございます。ただ、そう多くはございません。
- 町田委員長  
油本委員。
- 油本委員  
あわせまして、保険証と一緒に使えるようにというふうなことも今進められてるみたいですけども、そういうのの進捗状況といいますか、それはいかがですか。
- 町田委員長  
藤江課長。
- 藤江町民課長  
マイナンバーカードと保険証のひもづけについては、各健康保険の保険者のほうでやっておりますので、うちのほうでは分かりかねます。
- 油本委員  
かしこまりました。
- 町田委員長  
よろしいですか。その他ございませんか。それでは、ここでの質疑は終了したいと思います。ありがとうございます。
- ここで5分休憩を取りたいと思います。

(11:35) 【磯江総務課長、中野企画財政課長、藤江町民課長、友定出納室長 退室】

(11:35~11:39) 【休憩】

(11:39) 【中原教育総務課長、前田生涯学習課長 入室】

○町田委員長

それでは、再開いたします。

先ほどの質疑の中で訂正がございます。中原課長、お願いします。

○中原教育総務課長

何人かの委員さんから御質問をいただいたものがお答えできておりませんで、順番にお返しさせていただきたいと思っております。先ほど、委員長から訂正があるということでありましたけれども、また、その番になりましたら訂正のほうもさせていただきたいと思っております。

まず、油本委員さんのほうからいただきました学校のクラスの数、少人数学級の推進に当たってクラスの数の決定の方法です。年度中途に子どもが増えたり減ったりした場合のクラスの増減でございますけれども、正しいところで説明させていただきます。5月1日の子どもの人数によって、その年についてはクラス数が確定するという形が正しい内容でありますので、仮に5月1日以降、人数が増えたからといってクラス数が増えるということもございませんし、減ることもございません。あと、中学校のクラスの人数の基準ですけれども、国の基準はありますけれども、県のほうが少人数化を進めているところがありまして、現在、中学1年生が1クラス33人。中学2年生、3年生が35人ということで運用しております。以上です。

○町田委員長

油本委員。

○油本委員

すいません、5月1日の時点で確定してしまっていて、30が33になろうか35になろうか、めでたい話ですけどね、そのクラス数は考えないということによろしいですね。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

はい、そのとおりでございます。

○油本委員

あわせまして、中学、1年生が33、2年、3年が35、これ、違うのはなぜですか。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

まず、基本的に国の基準は現在40人です。それは中学1年であっても、中学3年生であっても40人になるんですけども、鳥取県のほうとしましては少人数化を進めるというところがありまして、2年生、3年生は35人。さらに、中学1年生、やはり小学校から中学校に変わることによってギャップといいますか、戸惑いがある年代であるんで、より手厚くしてやるということで中1については33人に設定がしてあるところがあります。

○町田委員長

よろしいですか。次に。

○中原教育総務課長

続きまして、中山委員さんのほうから御質問があった件です。まず、1点目です。コミスクの推進に当たりまして、大栄校区と北条校区と会議の回数が違うのでないんか、その理由はというところの御質問でありました。大栄の校区のほう5回、北条校区のほう3回というところで説明させていただいたところですけども、まずここでちょっと訂正をお願いしたいと思います。北条校区3回とお伝えして、主要施策のほうも3回ということで記載しているところですけども、正しくは4回でありました。申し訳ありま

せん。訂正をお願いいたします。まず、基本的に学校の協議会、町のほうとしましては基本的には年4回程度ということで、基準をつくらせていただいております。学期に1回、プラス年度初めにといったところの想定で4回とさせていただいております。北条校区につきましては基準どおりの回数を行っていただき、さらに大栄のほうについては、2学期に2回されているという結果がありまして5回という形になっております。各校区の会議の中でも、やはりこれまで行ってきた活動の報告と評価と今後についての計画といったところを各回の会議の中で行っていただいているというような状況でございます。以上です。

あと、中山委員さんのほうから、GIGAスクールの持ち帰りの割合のことのお尋ねがありました。今、状況としましては、やはり割合というのはちょっと出しにくいというのが正直なところでございます。現状としましては、必要に応じて持ち帰りをしているというところでございます。ですので、ふだん、何もなければ持って帰って、持ってきて、持って帰って、持ってきてというところまでは行っておりません。必要に応じてというのは、タブレットを使った課題、調べ学習だとか、そういったものを子どもたちに宿題として与えたときにはやっぱり持ち帰りをさせるという、こういった状況でございます。以上です。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

必要に応じてということですけど、今回、北条、学級閉鎖になってますけど、こういうのは必要に応じてに入るんですかね。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

宿題の出し方がタブレットを使わせたほうが良いというような判断があった場合には持ち帰るべきタイミングであるでしょうし、持ち帰らせておと思いますが、ただ、なかなか紙で済むことであったり何か既存のドリルで済むような場合だったら、わざわざ持ち帰らせるようなことはないかと思えます。特に、今回はコロナで学級閉鎖行っておりますけれども、一旦学校に来てその日も早帰りという形で、持って帰るチャンスはあったかと思えますけれども、今日急に休まなければならないというところであれば、持ち帰る準備も難しいので、ケース・バイ・ケースになろうかなというふうに思います。

○町田委員長

中山委員。

○中山委員

学校に來れないときの保管としてっていうのもあると思うんで、宿題だけじゃないと思うんです。学校に理由があって來れないけれども授業を見れるとか、そういうことも活用していかないといけないと思うんですよ。そのための端末でもあると思うので、それを除外したところで、宿題だけとかいうことで考えてしまうのはもったいない。これだけの金額を投資しているのに活用度が低いというのは残念だなと思います。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

中山委員さん、おっしゃるとおりかと思えます。使い倒すというちょっと表現がいいかどうか分かりませんが、やはりそういうコロナで欠席せざるを得ないというような場合についても、やはりどんどん進めていかなければならないというふうに思います。そこは確かに十分にはできてない部分かもしれませんが、意識はさせていただき

たいなというふうに思います。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

続きまして、長谷川委員から御質問いただきましたサプライズ給食、学校のほうでは実施しているんだけど、こども園ではどうかというところがございます。途中、申し上げたかもしれませんが、給食センターの調理については学校と北条こども園の一部、4、5歳児に対して給食提供を行っています。ほかの園につきましては各園で調理を行っている状況でございます。サプライズ給食については残念ながら、北条こども園の4、5歳児も含めて、学校と同じメニューをその日に出しているという状況にはなっておりません。ただ、サプライズ給食とは言いませんけれども、時期時期に取れる農産物については各園でも提供はさせていただいてるという状況でございます。以上です。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

こども園の特別メニューというのは学校でのサプライズ給食に相当するというので、そういう認識でいいんですね。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

サプライズ給食、なかなかふだんでは食べれないようなメニューを提供するという、子どもたちの喜びも与えるということが一つ目的だろうかと思っておりますが、確かに、こども園、ちょっといろいろ制約がございます。今回、今度シャインマスカットを使ったサプライズ給食を提供するんですけども、これをそのままこども園で出せるかといったら、やはり難しい状況があります。そのシャインマスカットも、子どもたちが自分でパンに挟んで、半分作って食べるというような楽しみも加えてるんですけども、こども園でそれができるかという話であったり、シャインマスカットでいうと、少しやっぱりそのまま出すことによって、ちょっと喉の詰まりだとかいうことがあるので、やはり同じような形での提供が難しいっていうのがこども園の現状ですけども、ただ、先ほども申しましたように、園なりの提供の仕方地元産材の食品は使うようにさせてもらっております。それがサプライズ給食と言えるかどうかといったらちょっと難しいかもしれませんが、そういった形でやっております。

○町田委員長

長谷川委員。

○長谷川委員

小学校でできて、こども園でできないという理由は分かりましたけれども、でも、やっぱり小さい間から地元の特産物になじんでいくということが大事なんだろうなというふうに思うので、特別メニューで子どもたちに驚きを与えとか、そういうことではなくて、やっぱり地元の特産物っていうものがこういうのがあるんだよっていうことを、その味を覚えていくことも大事なんじゃないかなというふうに思いますので、さらに充実させていただきたいというふうに思います。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

長谷川委員さんのおっしゃるとおり、その気持ちを持ってこども園での給食の提供は

進めていきたいと思えます。

○町田委員長

前田課長。

○前田生涯学習課長

私のほうは、中山委員から御質問いただきました隣保館事業で、主要施策の105ページにあります、ほくほくパソコンネット講座のほうは令和4年度から実施していないが、今後どうされるかということの御質問だったと記憶しております。こちらについては、やめた経緯としまして、習熟度が参加者によってかなり違って、なかなかニーズに合った講座を開くプラス予算内でやるということが難しいというところで令和4年度は中止しております。令和5年度も今のところ開催する予定にはしておりません。あとは、大栄分館のパソコンカフェですとか、中央公民館のほうでやっているシニアクラブでのパソコンコースとかもありますので、そちらのほうで利用いただけたらなというふうに今は考えております。

○町田委員長

よろしいですか。ほかにございませんか。阪本委員。

○阪本委員

いいですか。教育費の中で、90ページ、校門の移設工事やっていただきました。大変よかったなと思っとるんですが、実は先般、町道なんです、由良こども園に送迎をするコースになつとるところの道路脇の崖がちょっと崩れかけとって、町道なもんですから地域整備課に見てもらいました。今回補正で調査費が組んでありますので、やっぱり教育委員会のほうでも本気になってやってほしいです。だからぜひ、これが実現するようお願いしたいと思えます。よろしくお願ひします。

○町田委員長

中原課長。

○中原教育総務課長

こども園の送迎ですけれども、確かに狭い道があつたりしますんで、一方通行をお願いしたりだとか、そういうことをしております。ただ、物理的にのり面の問題だとか、そういったところについてはやはり道路管理者のほうに預けないといけん部分がありますんで、園の担当課だつたり、学校も同じことが言えるかもしれませんけれども、そちらの立場からもやはりお願ひといひますか、話はしていきたいと思えます。ありがとうございます。

○町田委員長

阪本委員。

○阪本委員

道路の担当者、町道ですから、補正の中で調査費を組んでくれましたから、ぜひ実現するようお願いしたいということでもあります。よろしくお願ひします。

○町田委員長

以上で所管事項について終わります。お疲れさまでした。

続けて進行してよろしいでしょうか。

#### 4 審査事項

##### (1) [陳情第7号]陳情書等の電子的方法による提出についての陳情

○町田委員長

それでは、4番の審査事項に入ります。(1)の陳情第7号、陳情書等の電子的方法による提出についての陳情でございます。これについて意見を伺ひます。油本委員。

○油本委員

まず、ちょっとお伺いしたいんですが、例えばここにありますように、湯梨浜町であるとか鳥取県議会はこれを受けているらしいですけども、うちはやってないと。うちはこれやった場合、例えば事務局の負担はかなり増えるのかどうか、煩雑になるのか、それをまず伺いたいと思います。

○町田委員長  
事務局。

○大庭局長  
特に煩雑になるということはないと思っております。

○町田委員長  
斉尾委員。

○斉尾委員  
この陳情ですけど、前にも出てたように思うんですね。その辺の確認。

○町田委員長  
出てたんですか。

○斉尾委員  
そのときは不採択になったというふうに記憶してるんですけど、それでよろしいですかね、そのときは。

○町田委員長  
事務局。

○大庭局長  
以前にも陳情が出ておりましたけれども、そのときには件名と趣旨が合わないっていうような御判断だったと思います。委員会もそうでしたし、本会議でもそういったことだったと思います。不採択にはなっております。

○町田委員長  
そういうことですが。油本委員。

○油本委員  
そのときの不採択の理由としましてね、いわゆる件名の意図が不明確であるということをおしは申し上げたわけなんですよ。そのとき、ちょっと細かいことを言えば、ここに手元に今、令和4年3月23日に提出されてうちが受け付けた原文があるんですけども、この出された者の言いたいことが、細かく言えば、主語がはっきりしてないと、やりたいことがはっきりしてないということがあったもんですから、ちょっと文章としてどうかなど。言いたいこと大体分からなくもないけども、どうせ出すんだったら、もうちょっとはっきりとてきぱきとした文章にして、私は今どういう手続をしたいからということで出していただければ、私は別にそれを受けることは不採択にするつもりはないんですけども、ただ、それがちょっと不十分だったもんですから、そのときはちょっと不採択という手段を取らせていただいた。それが経緯だと、私はそうでした。以上です。

○町田委員長  
ありがとうございます。それで、今回の陳情の文章についてはいかがでしょう。油本委員。

○油本委員  
併せて申し上げます。今回は、ある程度それは改善されております。一番上に陳情の趣旨が来て、趣旨が明確に表されております。誰がというものはもちろんないんですけども、以前の理由からしますとかなり改善されておりますので、今、事務局にお伺いしましたら、負担は増えることはないということですので、私はこの件は今回は採択というふうに、そういう立場を取らせていただきます。以上です。

○町田委員長

ほかに。長谷川委員。

○長谷川委員

私は採択に賛成であります。理由としては、言うまでもなくデジタル化を本町も本議会も進めていこうということでスタートしておりますし、何よりもやっぱり請願がやりやすいと、そういう国民の負託に応えるというところからも必要なことであると思えますし、それも別に無理なくできるということであれば賛成をしたいというふうに思います。

○町田委員長

ほかに。斉尾委員。

○斉尾委員

ここに県議会とか湯梨浜町議会、あと三朝町議会っていうふうに記載しております。県議会のほうでどういう、無条件にこのまま受け入れて、これで採択というふうにされているのか、その辺もやっぱり知りたいなと思います。県議会で何か条件とかがないのかなっていう気はしたりしとりますので、それを知ってからでもいいのかなとは思っております。それを調査してからね。ですから、継続審査でもいいのかなと思っております。今、分かりますか。

○町田委員長

事務局より説明。

○大庭局長

条件は県の県議会のホームページに既に出ております。本人確認ができる書類を添付して出すということです。それを今聞かれるのではなくて、調べて来ていただきたいです。ここで今、陳情について採択するかしないのかっていうことを議論、判断されるわけですから、それは委員の皆さんそれぞれ調べてきておいていただきたいです。以上です。

○町田委員長

斉尾委員。

○斉尾委員

そういう意見をいただけるんでしたら、調べる時間を取るためにも継続と。

○町田委員長

継続ですね。ほかに御意見ございませんか。まだ発言されていない方にお一人ずつ、お願いします。中山委員。

○中山委員

採択でいいと思います。時代が変わってきてますし、こういう要望は当然かなと思います。他町の議会がやってるからっていうことではなくて、本町として、様々な形の提出を受け入れますよという姿勢を示すことが大事かなと思いますので、採択です。

○町田委員長

尾嶋委員。

○尾嶋委員

自分も採択でいいと思います。中山委員が言うように、この御時世に合ったような対応も議会のほうでしていかないとだと思いますので。

○町田委員長

阪本委員、いかがですか。

○阪本委員

細かいことはよく分かりません。斉尾委員の言うように、もっと勉強してからという気持ちもありますけども、流れとしてはやっぱりこれは必要だろうということを思いますので、採択といたしたいと思います。

- 町田委員長  
御意見を伺いましたので、審査を行いたいと思います。まず初めに、採択すべきものと思われる方は挙手をお願いいたします。  
〔賛成者挙手〕
- 町田委員長  
6名ですね。それでは、不採択と思われる方は。  
〔挙手なし〕
- 町田委員長  
ゼロですね。継続審査。  
〔賛成者挙手〕
- 町田委員長  
1名。ありがとうございます。  
それでは、審査結果は、採択すべきもの6名ということで、採択といたします。委員会意見といたしましては、委員会意見はどのように。油本委員。
- 油本委員  
申し上げますね。ちょっとまず、長いバージョンからいきます。住民から行政手続の簡素化のために電子メール等の方法で提出された陳情文書等を受け付けることに、議会側に不利益はない。以上。まず1つの案です。
- 町田委員長  
ほかに御意見ございますか。それでは、先ほどの意見を再度読み上げます。よろしいでしょうか。住民から行政手続の簡素化のため電子メール等で提出された陳情文書等…。(発言する者あり)
- 町田委員長  
長谷川委員。
- 長谷川委員  
今の油本委員の提案に賛成なんですけれども、ただ1つだけ。本来、請願が正式なものですから、陳情だけのことをここで言わずに、やっぱり請願も頭つけてやるべきではないか。請願・陳情というふうにしたほうがいいのではないかなというふうに思うんですけれども。
- 町田委員長  
油本委員。
- 油本委員  
おっしゃるとおりで、たまたま今回が陳情だったものですから、陳情文書等としたままで。それは請願・陳情等でももちろん構いません。請願・陳情文書等で。
- 町田委員長  
請願も入れるということですね。
- 油本委員  
ちなみに、頭4文字、住民から、これはカットしてもいいと思う。以上です。
- 町田委員長  
じゃあ、行政手続の簡素化のためっていうところから始めますか。
- 油本委員  
請願等も入れるんだったら。
- 町田委員長  
それでは、陳情文書の前に請願、点を入れて、この文章でよろしいでしょうか。
- 油本委員  
請願文書等がいいね。陳情文書じゃなくて。



- 町田委員長  
等でいいか。
- 油本委員  
ですから、私の申し上げました、陳情文書等という部分を請願文書等というふうに変えられれば一番見る人も見やすいし、聞く人も聞きやすいし、委員長も分かりやすいし、それでいいと思います。
- 町田委員長  
分かりました。長谷川委員。
- 長谷川委員  
うちの議会の場合はいいんですけど、議会によっては陳情を文書扱いしたりとか、いろいろな扱いをすることで、やっぱり入れておいたほうがいいんじゃないかと思うんですけども。いかがでしょうか。
- 町田委員長  
どう判断する。両方入れときますか。中山委員。
- 中山委員  
等にするといろいろ等なので、請願、陳情、2つを入れた上で、文書等にしとけばいいと思います。
- 町田委員長  
2つとも入れて、等を入れるということで。油本委員。
- 油本委員  
等には要望書も含まれるわけですね。
- 町田委員長  
等とつけば、その他のものも含まれる。
- 油本委員  
要望書。教育委員会から上がってくるじゃないですか。
- 大庭局長  
幅広く要望をこれで受けるかどうかということなんですけど、今言われているのは請願と陳情のことなので、これを電子メールで受けるルール化をつくりたいというところ  
です。
- 町田委員長  
中山委員。
- 中山委員  
いずれそのほかの文書もそうなると思うので、等をつけて弾力性を持たせたら  
どうかと思います。
- 油本委員  
賛成です。
- 町田委員長  
等をつけますか。それでは、ほかの文書も来るかも分かりませんので、等をつけて委  
員会意見といたします。  
意見書の提出。それでは意見書なしでよろしいですか。それでは、なしということで。

## 5 協議事項

### (1) 閉会中の継続調査申し出について

- 町田委員長  
次に進んでもよろしいでしょうか。裏の5番の協議事項の継続調査は申出をする。調  
査内容、総務教育常任委員会の所管する事項ということで、申出をします。

## (2) その他

○町田委員長

(2)のその他です。その他はございませんか。(「なし」と呼ぶ者あり)

## 6 その他

○町田委員長

6番のその他。(「なし」と呼ぶ者あり)

## 7 閉会 (12 : 19)

○町田委員長

それでは、以上で総務教育の常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

※この会議録は要点筆記である。